

令和 7 年度 県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表 (定時制)

目 指 す 学 校 像		10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる				
三つの方針		具体的目標		評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題	
「三つの方針」 (スクール・ポ リシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる		B	・教育目標に呼应した教育手段の洗練 ・多様な特性やルーツをもつ生徒への対応	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。 ○働き方改革を念頭に置き、教育活動の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進めてライフ・ワーク・バランスを一層改善し、公私ともに実りある豊かな生活を目指す。		B	B	・「心の居場所・拠り所」となる学校環境の更なる整備 ・業務の効率化の継続的な推進
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材を受け入れる。		B	・本校入学者の進路ミスマッチを無くすための学校広報	
昨年度の成果と課題		重 点 項 目		重 点 目 標		達成状況
ここ数年、継続的に取り組んだ結果、全学年にわたり落ち着いた学習に取り組める環境が整備されてきた。 特に中学校在籍時に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な学校生活の保障ができている。 個別面談を定期的に実施したり、教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を支援する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し、希望により「基礎学力補習」を実施することができた。習得状況は生徒によって大きな差が出たが、学び直しを繰り返し行うことによって意欲がより高まる事を期待し、同様の学びの提供を継続したい。		○学習支援の充実に努め、確かな学力の定着を図る。		①授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や支援法の工夫に努めながら支援スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。		B
		○進路支援を充実させ、希望する進路の実現に努める。		①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路支援に努める。特に就職支援・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探究(学習)の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力・協働力で効果的な進路支援を進める。		A
		○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。		①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前でできる生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により、落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員が傾聴する姿勢を重視し教師と生徒の信頼関係の構築を図り、多様な背景を持った生徒一人ひとりが、安心・安全に学び続けられる居場所づくりに努める。 ③心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の醸成に努める。		B
		○体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。		①体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動するなかから運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感させ、活動意欲の向上を図る。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚させ、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心、道徳心を養う。 ③校外活動を通して社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。		B
		○働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境づくりを目指す。		①夏季休暇の100％取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②勤怠管理システムの活用等で教職員の超過勤務の状況を把握し、その改善やその他の課題解決に向けて取り組む。		A
		○学校評価を活用し、教職員の授業改善の意識向上に努める。		①生徒による授業評価結果を活用し、授業改善を図る。 ②教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80％以上となるよう努める。		B

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次 年 度 へ の 主 な 課 題
教科指導		生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の充実・向上に努める。	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習支援法の工夫を図る。	B	B	・全体として、授業デザインの工夫、生徒の学習ツールとしての一人1台端末活用に課題が残る。欠席・遅刻の多い生徒が一定数いるため、支援の方策を考えていきたい。
			学習評価は、観点別学習状況から総合的に評価する。	B		
			基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。	B		
		欠席、遅刻に対する適正な指導を行う。	積極的な授業参加を促し、欠席、遅刻の過多については厳正に対応する。	B		
		成績不振者に対する適切な指導を行う。	個別面談や家庭との連携を通して、成績不振の原因を把握し、改善策を探る。	A		
教	国 語	話す・聞く、書く、読むの基本的な力や漢字力を身に付けさせる。	漢字検定などの資格取得を通して個々の生徒に目的意識を持たせる。	A	B	・生徒の実態を考慮しながら、学習展開を円滑に行い、上位者も含めて主体的な学習を促すことができたので、次年度も生徒個々の能力を見極めながらの授業展開が必要。 ・漢字検定は、学習時間を確保し、合格率34.1%の結果がでた。生徒の資格取得に向けての学習意欲は高まってはいるが、外国人籍等の受検者に対する支援が必要。
			教材を生かして、話す・聞く、書く、読む力や、知識を身に付けさせる。	A		
		主体的な学習態度を身に付けさせる。	生徒の実態を考慮した授業展開を心がけて、意欲を持って学習する態度を養わせる。	B		
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B		
	地歴公民	地歴公民の基礎的な素養を身に付けさせる。	教科書の基本的な事項を理解させるために授業プリント提出を義務付ける。	A	B	・生徒間の学力差が大きく、どこを基準としていくか常に苦慮している。表現をわかりやすくするよう努めるとともに興味関心を喚起するための工夫を重ねていきたい。これからの社会の担い手として諸問題を「自分事」として主体的に取り組む姿勢を授業を通して養っていきたい。
		現代社会の諸問題に関心を持たせる。	社会の事象について、資料に基づいて多角的に分析して、自分の意見を表現できるようにする。	B		
		地理的な見方・考え方を養う。	地図や統計を活用して地理的事象を追究する技能を身に付けさせる。	B		
		歴史的思考力を身に付けさせる。	歴史的な事象を、資料・年表・地図等と関連させ学習できるよう工夫する。	B		
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B		
	数 学	基礎基本的な内容を身に付けさせる。	小学校・中学校の内容を未消化のままの生徒が多いことを考慮しつつ、将来、社会人として必要な基礎基本と言える数学的内容の修得習熟を図る。	B	B	・小学校・中学校の基礎基本的な内容は、授業初めの小テストで確認を行っているが、十分な理解を得ていない生徒への補助が次年度も必要である。 ・授業において、生徒に積極的な発言を常に求めたが、発言に消極的な生徒もみられる。次年度も積極的に発言を行いやすい環境を整えていきたい。 ・次年度も、日常生活と数学の結びつきを、授業を通して理解することを目標としたい。
		数学のよさに気付かせる。	数学的活動を通し、数学的な見方考え方のよさに気づき、物事を数学的に考えることの興味関心態度の向上を図る。	B		
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるように支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	A		
	科 理 科	基礎学力の向上を図る。	提出物等の確認を計画的に行い、学習内容の定着度や理解度を把握する。	B	B	・授業で扱う項目について、身近な現象ではどのようなことに合致するかをできるだけ意識させ、学習項目の理解を深めることに役立てた。効果的に実験動画等を生徒に提示し、理解を深めさせることができた。授業内容をプリントを電子黒板で提示できるようにし、生徒が板書事項を記録する際、書写等の負担を減らすことができたため、次年度も継続して行いたい。
			学習内容を精選し、基礎的で科学的な語彙力の習得を向上させる。	B		
			生徒の学習意欲を常に喚起するような魅力的な授業展開と実験の充実を図る。	B		
		理科が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	デジタル教材の活用を図り、より理解しやすい授業の工夫を目指す。	A		
			身近な話題を取り上げ、実生活と教科書の内容とのつながりを強化する。	A		
	保健体育	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	B	・体育の授業において、より多くのスポーツ種目を実践することで生徒自身が生涯親しむことができる種目探しのきっかけとなるようにしたい。
		スポーツ活動の意義の理解を深めさせる。	運動の楽しさや喜びが深まるよう努める。	B		
		心身の健康についての理解を深めさせる。	技能の習得段階に即した、個に応じた支援を取り入れ授業を展開する。	B		
		安全や健康についての理解を図る。	安全教育や健康教育を推し進めて理解を深める。	A		
	芸術	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	A	A	・各自の技能を把握しつつ、教材を工夫しなたら、生徒がより意欲的に取り組めるよう努めていきたい。
		基本的な技法を習得させる。	個々の能力・学習到達度に応じた支援を取り入れ、授業を展開する。	A		
		完成させる力を身に付けさせる。	幅広い教材を取り入れ、興味・関心を引きだすよう努める。	B		
		生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	A		

教科	外国語 (英語)	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。	B	B	・1学年は、アルファベットの大文字・小文字など、初歩的なところから学習を開始。卒業までに文法事項は現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、受動態、未来形、助動詞までを学習予定している。 ・2～3年間で日記を書けるようになることを目標に、文法説明を最小限にする一方で、発話する授業展開の工夫をし、教科書暗唱テストや表現テストを実施したい。 ・英検の受験者が増えてきたが、今後も少ないながらも英語学習に対して主体的に取り組む生徒を育てたい。		
		英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。	B				
		異文化に興味を持たせる。	教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。	B				
	家庭	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80％以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	B		・家庭と直結している社会の問題や課題について、自分事としてとらえ、その解決策について生徒が自ら考えられる授業展開を目指したい。	
		家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。	B				
		基本的技法を習得させる。	実習を通し、技能と修得の目標とする。	B				
	情報	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう支援改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80％以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	B	・A I の活用を含め、情報活用能力を高める指導の工夫、生徒が主体的に学習できる授業展開の工夫が必要である。		
				情報活用能力を修得し、情報化社会で活躍できる人材を育成する。			必要な情報を検索、収集し、その情報の正誤を正しく見極められる能力を身につける。	A
							収集した情報を加工し、さらに付加価値の高い情報とする能力を身につける。	B
	教務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実に行う。 急な年休に対応できるよう、各科目の自習課題を常にストックする。 教科・科目の授業時間のバランスを図り、学校行事などの調整を図る。	A	B	・急な年休の際の授業の振替について、教員間の連携で対応できた。各教科、クラス担任のきめ細かい対応で、進級進学が順調である。次年度も継続していきたい。 ・本校定時制の教育活動の公表に関しては今年度は学校見学にとどめ、希望者に対し丁寧な案内を努めて十分な理解をしていただいた。次年度もこの形式を取りたい。		
				B				
				A				
進級率100％を目指す。			個に応じたきめ細かな支援を行う。	A				
授業規律を確立する。			分かる授業の展開。観点別評価規程の明確化。学ぶ姿勢を教える。	B				
校内研修の充実を図る。			B Y O D に対応出来る I C T リテラシーを身につける。	B				
生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。			生徒・教員による教育課程の評価を点検し、改善すべき点を見いだす。	A				
教育活動の公表に努める。		積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。HP更新の頻度を上げる。	B					
		特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養うことで、社会性の向上を図る。	生徒が学校生活を楽しみ、帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。	A	A	・今年度は新規の行事として「ハロウィンイベント」が行われた。計画から準備、運営まで含め、生徒が主体となり、生徒同士が協力して取り組む姿が見られた。来年度は今年の経験や反省点を踏まえ、生徒会行事をさらに良いものになるよう努めていきたい。	
生徒会行事を精選し、企画や運営に生徒がより主体的に参加できるように助言する。				A				
キャリア形成を図る。			ホームルームや総合的な探求(学習)の時間にキャリア・パスポートを活用して、過去を振り返り将来像を考えさせる。	B				
生徒支援		基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし、その状況把握に努め、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた適切な支援を行う。	B	B	・今年度は、女子生徒が登下校中に外国人に声をかけられたり、付きまとわれたりの被害があった。しかし、竜ヶ崎警察署や保護者との連携を迅速かつ綿密にとることができた。 ・日々の職員内での情報共有などの機会を通して、生徒が関係する事柄について共通理解を得ることができた。 ・年度初めの、教頭との竜ヶ崎警察署、竜ヶ崎市教育センターへの訪問、情報共有については、継続していくことが望ましい。		
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。		日々の学校生活の中で、場面場面に応じた効果的な支援に努め、定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。	B				
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。		定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握、共有することによって、問題の早期発見と早期支援に努める。	A				
	教育相談の充実		担任は元より、養護教諭やスクールカウンセリングを通して、心の教育の充実を図る。	B				
進路支援	個々の生徒の能力・適性に応じた進路支援に努める。	進路セミナーの実施などの他、進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的に行之、生徒の主体的な進路意識の涵養に努める。	B	B	・定時制の進路指導を初めて担当し、進路情報の提示や生徒個人に対する指導を中心に行った。全体に対しては、進路ガイダンス、労働セミナーを実施。さらに、常陽銀行主催のキャリアセミナーにも参加した。次年度も同様に進めていきたい。 ・特に就職希望の生徒には、個々の特性も考慮しながら進めたが、一人ひとりの適性を考えての指導に難しさを感じることがあった。このため、就職希望の生徒も含めて、早期から生徒一人ひとりへのキャリア支援対策が必要である。			
		進路情報の収集と提供に努め、生徒や保護者への啓発を図る。	B					
	進学希望者への対応を図る。	進学希望者の実情を把握し、面談を行って希望が実現できるよう支援してゆく。始業前の時間などを利用して、希望者には各教科で個別支援を行う。	B					
	希望する進路が実現できるように支援を強化する。	就職支援を充実させて、目標を持って就職活動ができるよう働きかける。 廊下に進路資料コーナーを作り、日頃から進路についての情報に触れさせる。	A					
保健	健康的な生活習慣の定着と、自己肯定感を育む保健支援に努める	健康診断を受けることで、自身の健康を理解させる。自主的な心身の健康づくりの必要性を考えることができる資質・能力を養う。	B	B	・健康診断はほぼ全員が受診し、結果についてもそれぞれに通知した。健康診断の受診の必要性をきちんと理解できているようだ。次年度も同様に進めたい。 ・困っている様子の生徒にはカウンセリングを勧め、各自自分の気持ちが整理できたようだ。 ・感染症の発症は数件見られたが、校内においては換気・消毒などの対応を早期に開始し校内での流行はなかった。今後も生徒が安心して登校できる環境を維持していきたい。			
		心身の発達段階に応じた個別の健康相談を行う。必要であればスクールカウンセラーと連携し、生徒の問題の自己解決の手助けをする。	B					
		感染症対策は引き続き実施し、感染予防に努めさせる。健康で安心できる学校生活の継続を目指す。	B					
図書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒の読書意欲を高められるよう、図書の案内や、読書環境の整備に努める。 新聞や書籍等を教科の授業でも活用する。	B	B	読書の啓発とともに、図書委員活動に関わる生徒の支援に努める。			

第 1 学年	基本的な学習習慣を身に付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ、毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。	B	B	・概ね落ち着いた態度で学校生活を送っている。学力差が大きく成績不振の生徒への支援と共に高い目標を持っている生徒が満足できるような対応も求められている。三卒三修を希望する生徒がいる一方で進路目標が明確でない生徒もいるため、次年度、更に意識付けを強めていきたい。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的な生活習慣を理解させ、集団生活を通じて規範意識を養わせる。LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で、他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。	B		
第 2 学年	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適応できずにきた生徒達であることに留意し、面談を行いながら生徒理解に努め、各人に応じた目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。	B	B	・三修三卒希望者に対しては、水戸南でのスクーリングや課題提出状況を的確に把握し円滑な単位取得ができるよう努める。また進路指導に関しても、個人の希望が実現できるような確な指導を行う。四年間で卒業を希望する生徒に対しては、進路のイメージを早めに持ち、情報収集に努められるよう支援する必要がある。
	基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する支援を行うとともに、家庭環境・心身の状態に留意しつつ、家庭との連絡を密にしながら適切な支援を行う。	B		
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに、日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し、授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。	A		
第 3 学年	進路についての意識向上を図る。	個別面談やHR等を通して生徒理解を深め、将来の就労や進学に向け意識の向上を図る。	A	B	・5月の面談から、進路に関することを中心に行い、専門学校や就職先のパンフレットを見せて、進学先や就職先の具体的なイメージをつかむことに重点を置く。 ・三修三卒生の対応として、水戸南高校の出欠状況等を学級担任が的確に把握する必要がある。
	自己実現を図るために、基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて、意欲的に授業に臨むことができるように支援する。	B		
	卒業後の進路を見据えて、個々の生徒に応じた進路支援を行う。	適宜進路についての面談を行い、進路実現のために情報を提供して、各人が目標を持って学校生活を送れるよう支援する。	B		
第 4 学年	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ、身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接支援などを通して支援してゆき、社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。	A	A	・クラス内で、お互いが適度な距離を保ちながら、協力し合い、コミュニケーションをとれるような雰囲気を作ることができた。協力し合いながら頑張る様子も見受けられた。進路決定では、生徒一人ひとりが真剣に将来を考え主体的にその実現に努力した。長期休学後に復学する生徒への対応に課題が残る。
	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別支援を行う。また、保護者との連携を密にする。機会を見つけて面談を行い、卒業に向けて目標を持った学校生活を送れるよう支援する。	B		
	進路支援の充実を図る。	各種進路情報を収集し、そのつど生徒に提供する他、面接支援など、希望進路実現に向けた取組を実施する。	B		
	実社会に適応できる習慣や能力の向上を図る。	あいさつやマナー、協同作業を通じて課題を達成する能力など、卒業後社会人として必要な習慣や能力の向上を図る。	A		

※評価基準： A＝良好 B＝普通 C＝不十分（問題あり）